

旧核燃料試験研究施設の整備 (放射性廃棄物の保管)



三菱マテリアル株式会社

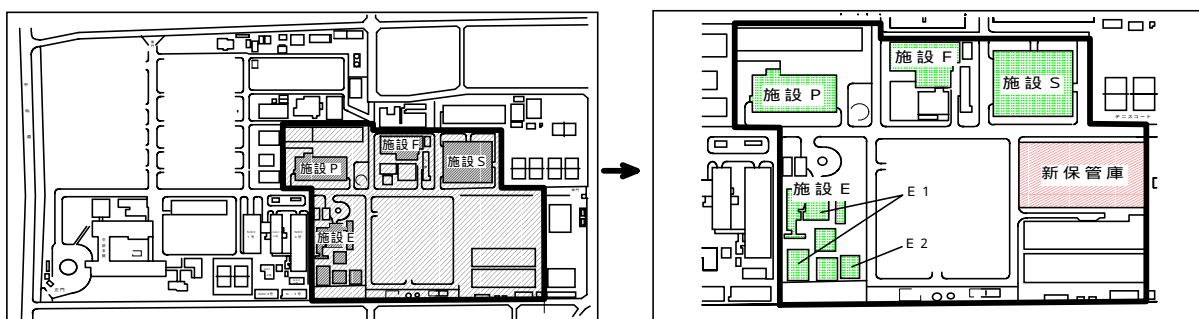
1. 保管庫完成のご報告と御礼

当研究所は、平成11年7月に「総合研究所 旧核燃料試験研究施設整備についての今後の計画」(以下「今後の計画」と略します。)を発表致しました。その後、「今後の計画」に基づきまして、施設P、施設E(位置は下図をご参照下さい。)の整備作業を進めてまいりましたが、本年(平成15年)3月、新保管庫が完成し、仮保管庫(施設F、施設S)に保管中の放射性廃棄物を新保管庫へ移動する作業を開始致しました。なお、この放射性廃棄物には、回収された汚染土壌も含まれております。

平成11年以降、新保管庫完成に至るまでの近隣自治会の皆様及びご指導いただきました行政、関係各位のご理解・ご協力に厚く御礼申し上げます。

(研究所内配置図)

(保管庫周辺拡大図)



(解体工事計画)

施設E	・全体の3/4(E1部分)は、昨年(平成14年)9月~10月解体済み。 残り(E2部分)は、本年6月から解体開始予定。
施設P	・E2と同時期に解体予定。
施設F、施設S	・放射性廃棄物の仮保管庫として使用中。新保管庫へ放射性廃棄物を移動完了後、解体予定。

2. 整備作業のこれ迄の流れ

平成11年	3月	整備状況について新聞報道がなされる。
	7月	「今後の計画」発表。
12年	3月	施設Fを仮保管庫として使用開始。
	5月	施設E内の埋設物によって汚染した土壌の回収完了、見学会実施。
	11月	ホームページによる情報公開開始。
13年	4月	「近隣の皆様の相談室」設置。
	7月	新保管庫を平屋建てから、現在の地下保管庫への変更発表。
	11月	施設Sを仮保管庫として使用開始。
	11月	放射線管理記録の公開開始。
14年	8月	施設E、施設Pの解体工事計画の説明会実施。
	10月	施設E解体の第一期工事完了(施設Eの3/4)。
15年	3月	新保管庫完成。

3. 新保管庫の概要

- ・建設期間 平成14年 1月～平成15年 3月
- ・構造 鉄筋コンクリート地下2階
- ・床面積 地下1階、地下2階共に約3,300㎡
- ・深さ 地上部から地下2階床面まで約14m
- ・許可を得ている保管量

	地下1階	地下2階	合計
三菱マテリアル	約2,400個 (約9,600本)	約600個 (約2,400本)	約3,000個 (約12,000本)
ニュークリア・デベロップメント(NDC)	-	約1,560個	約1,560個

(注)上段は角型容器の場合、下段()内は200 ドラム缶の場合を示します。
 なお、保管するものは当所で発生したもののみです。

4. 安全対策

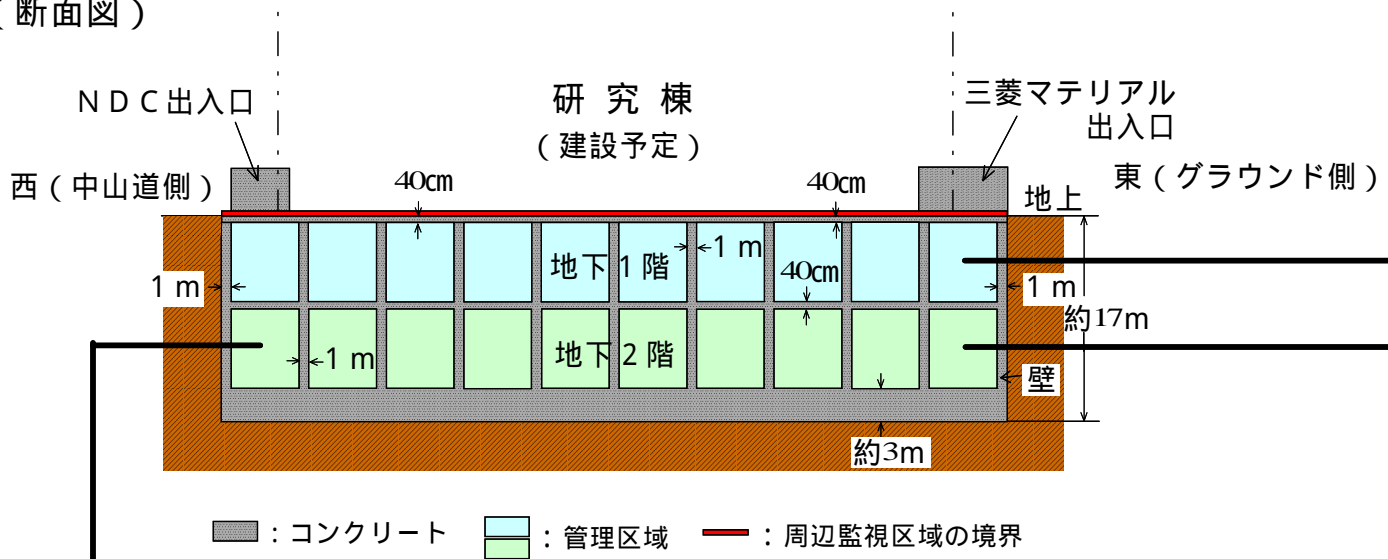
項目	内容	
放射線防護	コンクリートの厚い壁と床によって遮へいされます。	
地震対策	最新の耐震設計基準に基づいております。	
火災対策	自動火災報知設備、屋内消火栓及び連結散水設備を設置しております。	
日常管理	管理区域設定	保管庫内は放射線管理区域とし、地上部との境界を周辺監視区域境界とし、みだりに立ち入らないように管理します。
	放射線測定	管理区域内のみえなく、地上部においても定期的に放射線の測定を行ないます。
	換気	給排気装置を運転し、保管庫内の空気の入れ換えを行ないます。
	点検作業	保管庫の状態及び放射性廃棄物の保管状態を定期的に点検します。

5. 情報公開

- (1) 従来、整備作業中に毎月報告しておりました環境モニタリング結果につきましては、整備作業の完了とともに取り止め、それに代えて、放射線測定結果などの記録を「近隣の皆様の相談室」に備えて公開します。
- (2) 上記放射線測定結果も含め、ホームページによる情報公開は、従来同様行なってまいります。
- (3) 「近隣の皆様の相談室」による対応(ご来所によるお問合せ、フリーダイヤルの電話、インターネットによるお問合せ)につきましても、従来同様行なってまいります。
- (4) 毎年9月の防災週間の前後に、近隣自治会の皆様に対して、保管状況を見ていただくための見学会を行ないます。

6. 新保管庫の構造

(断面図)



(周辺監視区域内及び管理区域内への出入は、地上部の出入口からのみとなります。)

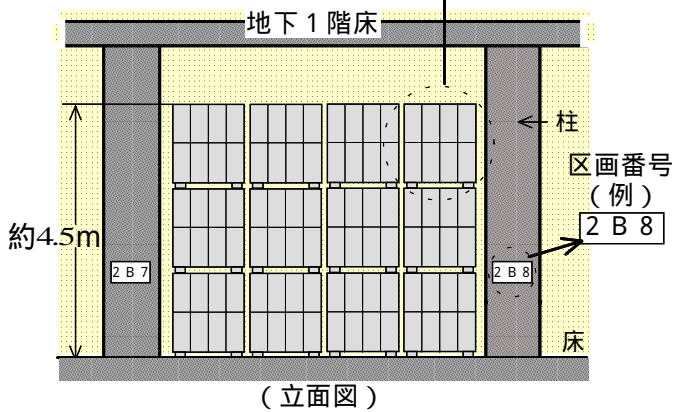
角型容器



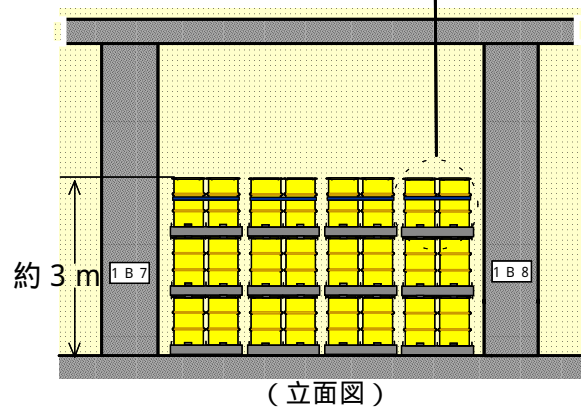
4本をパレット上で固縛している状況

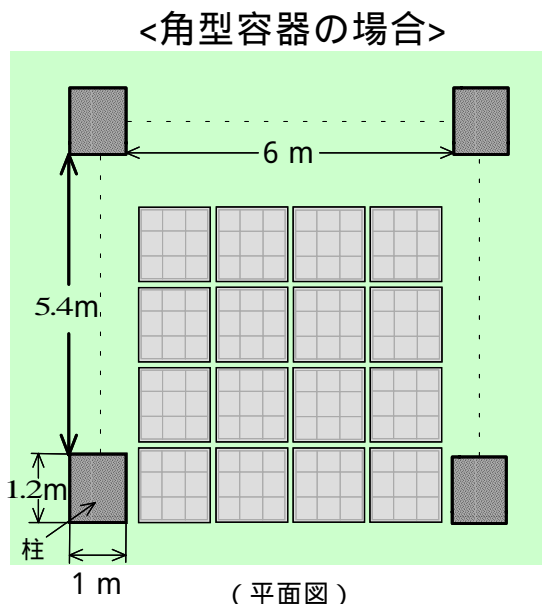
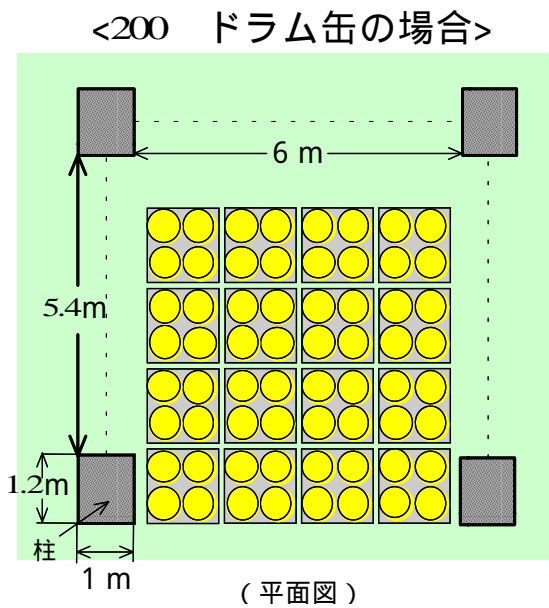
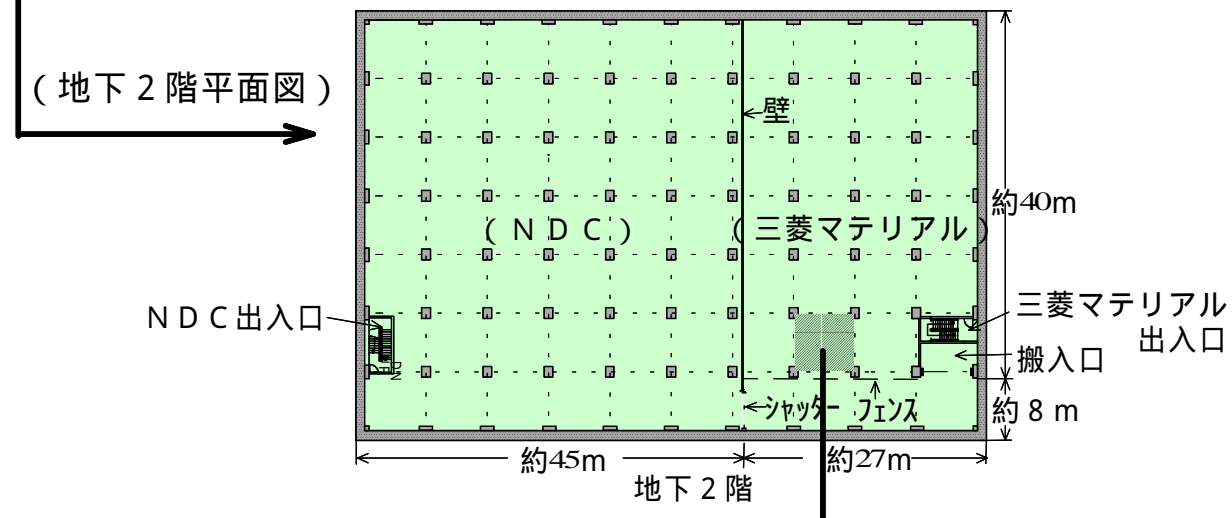
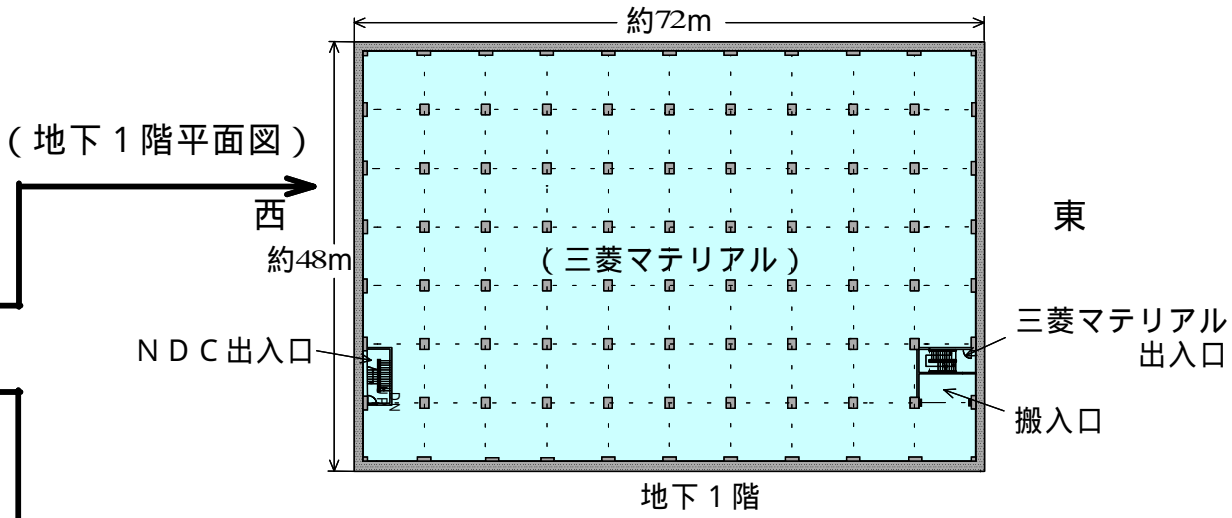


<角型容器の場合>



<200 ドラム缶の場合>





Q & A

Q 1 : 放射性廃棄物の種類は何ですか。

A 1 : 試験研究を行った際に発生した物、解体撤去した試験設備、解体した建屋及び回収した土壌などでウランによって汚染したものです。

Q 2 : 放射性廃棄物の放射線のレベルはどのくらいですか。

A 2 : 収納容器の表面における放射線量は大半のものが $0.07 \sim 0.2 \mu\text{Sv/h}$ です。なお、これには自然の放射線レベルである $0.05 \mu\text{Sv/h}$ (平均) を含みます。

Q 3 : 保管庫の上での放射線のレベルはどのくらいですか。

A 3 : 当研究所周辺での自然放射線は $0.04 \sim 0.07 \mu\text{Sv/h}$ ですが、放射性廃棄物による地上部への影響は、コンピューターによる評価計算によれば高めに見積もっても最大 $0.018 \mu\text{Sv/h}$ となり、無視できるレベルです。

Q 4 : 放射性廃棄物は永久に保管するのですか。

A 4 : 同じような研究所から発生した放射性廃棄物の処理・処分に向けて、国レベルでの検討、事業者間の検討など、最終処分に向けて鋭意努力しております。

Q 5 : 保管中に容器に異常が発生したらどうするのですか。

A 5 : 万一、容器に異常が見つかった場合には、補修などの対策を講じます。

お問い合わせ先 : 三菱マテリアル株式会社
総合研究所「近隣の皆様の相談室」
電話 0120-662-637 (フリーダイヤル)
Eメール : ksoudan@mmc.co.jp

作成 平成15年5月8日